

新潟県に災害をもたらした主な気象事例

昭和56（1981）年 台風第15号による8月22日から23日にかけての大雨 暴風

台風が強い勢力を保ちながら東北地方を縦断、上越・中越の山沿いを中心に大雨

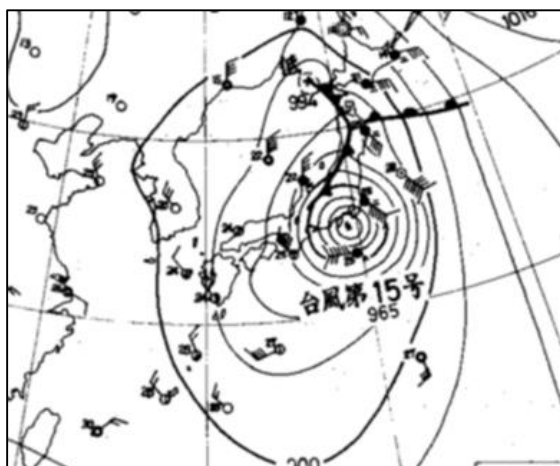
【概要】

昭和56（1981）年8月16日に沖ノ鳥島付近で発生した台風第15号は、発達しながら北上し、8月23日4時過ぎに、中心気圧965hPa、最大風速35メートルで千葉県館山市付近に上陸した。台風は上陸後も勢力を維持しながら東北地方を縦断、新潟県には23日朝に最も接近した。また、日本海北部には前線を伴った低気圧があり、低気圧からのびる寒冷前線が23日午前中に北陸地方を通過した。

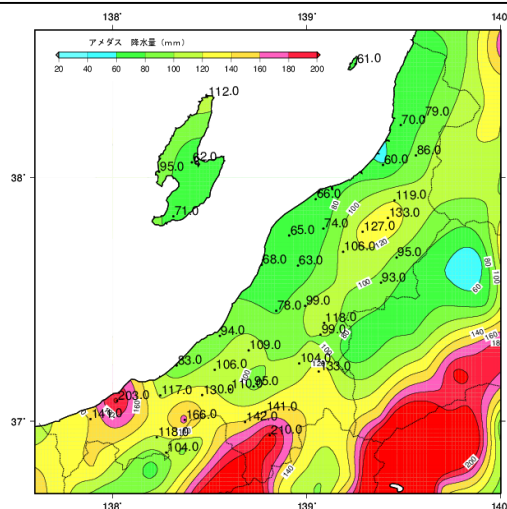
台風や前線の影響で、上越と中越の山沿いを中心に大雨となり、降水量は多いところでは200ミリを超えた。特に湯沢では23日朝に1時間54ミリ、3時間117ミリと集中して降った。また、台風の接近時には風が強まり、新潟では23日朝、最大風速20.7メートル（北西）、最大瞬間風速37.5メートル（北西）を観測した。

この台風と前線による大雨で、中越の山沿いを中心に水害が発生し、風による被害と併せて、県内では人的被害16名（死者5名含む）、住家被害4,004棟（半壊4件含む）、公共施設などの被害をもたらした。

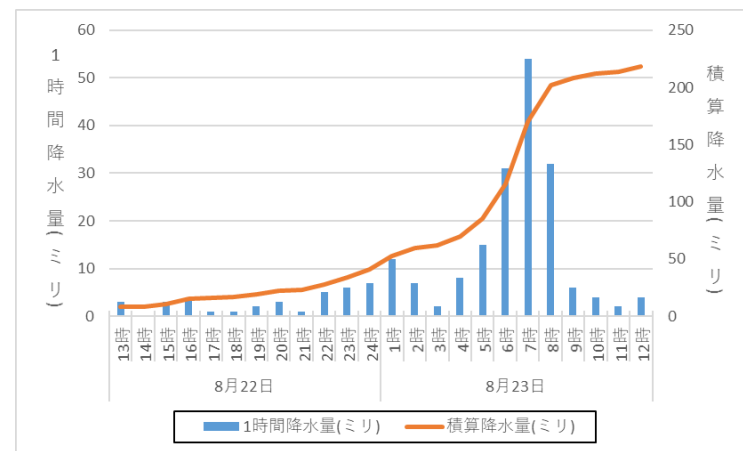
（気象庁災害時気象速報、新潟県地域防災計画より引用）



地上天気図（昭和56年8月23日03時）



積算降水量（8月22日13時～23日12時）



湯沢の毎時降水量（8月22日13時～23日12時）